

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・別府アルゲリッチ音楽祭や大分アジア彫刻展、国東半島芸術祭等により、優れた芸術文化の鑑賞機会はもとより、国内外に対して最高レベルの芸術イベント開催地としての情報を発信できた。
②	・県民芸術文化祭の開幕行事では、主催団体が県民参加型の企画を新たに加えたり、来場者の交通手段を確保したりするなど、参加者にとって魅力ある企画にするための創意工夫がなされた。 ・国東半島芸術祭では、アーティストの見方や来訪者とのふれあいを通じて、地域住民が地域の魅力を再認識する好機となった。 ・まちなかアートギャラリーでは、絵画展示41団体・パフォーマンス11団体・ワークショップ15団体が参加し、中心部商店街でアートイベントを実施することで多くの県民が参加でき、アートに親しむ場を提供することができた。
③	・高山辰雄賞ジュニア美術展では、子どもから約10万点の作品が応募され、表現力や感性を伸ばすとともに、OPAM誕生祭での展示等も行い、多くの県民に鑑賞機会を提供できた。
④	・本体工事、ペDESTリアンデッキ工事、屋内外展示品の制作、美術館情報システムの整備等を着実に進めた。また、竣工を記念したOPAM誕生祭などのイベントの開催による機運の醸成、開館に向けた県内外での広報を行った。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(26年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価		主要な施策の成果掲載頁
			総合評価	27年度の方向性	
①	別府アルゲリッチ音楽祭開催事業	38,000	A	継続・見直し	20
	大分アジア彫刻展	11,900	A	継続・見直し	21
	国東半島芸術祭開催事業	136,787	A	終了	22
②	まちなかアートギャラリー推進事業	15,782	B	終了	214
④	県立美術館建設事業	5,042,520	A	終了	23

【VI. 施策に対する意見・提言】

<p>○大分県文化振興県民会議(H27.3)</p> <p>・未来を預かる子どもたちは体感することが少なくなっており、本物の文化に触れる機会の充実が必要だ。</p> <p>○大分県文化振興県民会議(H26.8)</p> <p>・大分県は小藩分立の中、それぞれの地域で個性豊かな文化を花開かせてきたので、その伝統を活かしていくとよい。</p>	<p>○大分県経済同友会提言(H26.4)</p> <p>・アートと地域住民の出会いと対話の機会を設けるような取組を行うことで、芸術文化を地域が抱える社会問題の解決に活かせるとうい。</p> <p>○「安心・活力・発展プラン2005」第4回発展部会(H27.2)</p> <p>・iichiko総合文化センターにおけるアジア彫刻展の作品展示等、ネットワークを生かして、質の高い作品を間近で見ることができる機会を増やして欲しい。</p>
--	---

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
A	<p>・今後も引き続き、県内各地において多彩で質の高い芸術文化活動が行われるよう、優れた芸術文化を鑑賞し、参加し、創造することができる環境整備の充実を図るとともに、将来の芸術文化の担い手や鑑賞者を育むために、若者や子どもたちの豊かな感性や創造力を育成する機会を充実する。さらには、本県の芸術文化を活かした文化プログラムの展開により、多彩な芸術文化に親しむ機会を充実させるとともに、本県の芸術文化の魅力を発信する。</p> <p>・これらに加え、大分県立美術館とiichiko総合文化センターを芸術文化ゾーンとして、関係団体や県下各地で展開されている様々な芸術文化活動等との連携を進め、ネットワークの構築を図る。また、芸術文化の持つ創造性を活用して、少子高齢化や人口減少社会、産業振興や人材育成など、社会的、経済的な課題に対応する。さらには、「創造県おおいた」を目指し、核となる人材を育成するとともに、アート拠点や団体、市町村等と連携して、芸術文化の創造性を生かした地域づくりを推進する。</p>